

平成 30 年度 学校自己評価表 (報告)

学校運営計画		
学校運営方針	生徒一人一人に自己の興味・関心、適性を理解させようとして、各々の分野でのプロフェッショナルを志向させ、生涯にわたりその努力をしていける人材を育成する。	
昨年度の成果と課題	30年度の重点目標	具体的目標
<ul style="list-style-type: none"> 卒業時における進路未決定者ゼロを目指した生徒指導、進路指導に努める。 基礎学力の向上に向けて授業時数を確保した。希望進路に対応した学習内容を推進するとともに本年度も生徒の興味・関心、適性に合った指導に努める。 保護者や地域住民に対して学校行事等へ参加を促し、本校の教育活動の理解を図る。 	地域から愛され、信頼・信用される人材の育成を図る。規範意識の向上を図るために全教職員による生徒指導体制を確立する。	教職員の共通理解を図り、指導体制を整備して校内外の身だしなみやモラル・マナー指導を徹底する。
	生徒の望ましい職業観・勤労観を確立させ、職業選択を視野に入れた教育活動を推進する。	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を中心としながら、各教科において職業観を高める指導を行う。
	生徒自身で将来を切り開くことのできる応用力を持った、基本となる確かな学力・資質を育成する。	生徒の実態に応じて工夫を図り、興味・関心を喚起しながら、基本的な知識及び応用力を習得させる。
	瑞穂会活動を通して自主性と思いやり、人権尊重の気持ちを持った生徒を育成する。	瑞穂会の自主的な活動を促し、部活動加入率を高めるとともに、人権・同和教育の定着に努める。
	家庭や地域社会、関係機関と連携し、地域から愛され、信頼される学校づくりを推進する。	PTA活動等への参加を促すとともに、地域住民や関係機関等との連携を密にする。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
地域から愛され、信頼・信用される人材の育成を図る。規範意識の向上を図るために全教職員による生徒指導体制を確立する。	教務部 ・教育環境の充実を図る。	円滑な教育活動を行うため教務室の整理整頓を促し、消耗品の補充や教室などの施設・設備が有効に利用できるよう連絡・調整を行う。規定の見直しを継続する。	A	A	
		授業振り替えボードなどを活用し、自習時間を減らすよう促す。また、生徒向け掲示板や校内放送の適正利用を促し、生徒の主体的な学校活動の実現できる方策を講じる。定期考査、追認査定、観点別評価のあり方について検討を継続する。	B		
		・情報機器を有効活用し校務の効率化を図る。	オリエンテーションや研修などを通し、校内LANの有効利用についての理解を深めるとともに、情報セキュリティに対する意識を高め、情報モラルの維持・向上に努める。	B	B
			生徒個人情報の一元管理を行い、校内LANパソコンの適正な利用と管理を促進する。定期的にクライアントサーバーや校内LANの保守・点検を行い、良い使用環境作りに努める。	A	
	生徒指導部 ・規範意識向上	・交通安全意識の高揚を図る	立哨指導(年4回)、身だしなみ検査(年6回)を適切な時期に実施し、規範意識の向上を図る。	A	B
			挨拶指導・遅刻指導を実施し、基本的な生活習慣を確立させる。毎朝の登校指導を継続する。	B	
		・交通安全意識の高揚を図る	問題行動予防のため、校内巡視を全職員で分担して行う。	B	A
			交通講話やバイク実技講習会を実施し、交通マナーの向上に努めさせる。	A	
安全対策のための情報を職員および生徒に提供し、生徒の安全に対する意識の高揚と事故防止に役立てる。	A	A			
登下校の街頭指導を実施し、交通安全について指導、点検する。	A				

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
地域から愛され、信頼・信用される人材の育成を図る。規範意識の向上を図るために全教職員による生徒指導体制を確立する。	教育環境部 ・健康の自己管理能力の育成を図る。	学校保健計画に基づき健康診断や健康相談を実施し、個々の健康状態を把握させ自主的な健康管理ができる能力を育成する。	A	A	
		高校生の健康課題について、関係機関と連携した保健指導・健康相談を実施する。	A		
	・清潔な環境で生活できるように努める。	屋外のゴミ拾いを各クラス輪番で週1回実施する。	A	A	
		教育環境部・整備委員会が中心となり、ゴミの分別マナー・減量をポスター掲示などで呼びかけ、徹底を図る。	A		
	・災害に適切に対応する能力の基礎を培う。	学校防災計画の見直しを行ない、社会情勢の変化に対応した事前の危機管理意識の向上を図る。	A	A	
		災害等の現状、減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動が出来る態度を養う。(火災・地震・津波等それぞれの災害を想定した防災意識の向上を図る)	B		
	・生徒、職員が利用しやすい図書館づくりを目指す。	書架整理等を実施し、読書や学習に適した環境を整備する。	A	A	
		図書館を利用することを通して、公共の場でのマナーを尊重する意識を育てる。	A		
	・読書に対する興味や関心を喚起する。	生徒や職員の購入希望を活かし、学校の教育活動に資する資料の収集に努める。	A	A	
		「図書館だより」、「図書館報」を定期的に発行し、図書を紹介に努める。	A		
	・視聴覚、放送機器、機材の充実を図り、有効活用を推進する。	「おすすめの50冊」を選定・配付し、校内読書週間を設ける。	A	A	
		機器、機材を充実させ、教育活動で利用しやすいよう改善に努める。	B		
	いじめ対策委員会 ・いじめの未然防止、早期発見に努め、解決を図る。	いじめ防止基本方針に基づき、アンケートを年3回実施する。	A	A	A
		人権講演会等の講演会を通じ、生徒の自他尊重意識の醸成を図る。	A		
		職員校内研修を複数回行い、対応能力の向上を図る。	A		
特別支援教育推進委員会と連携し、職員全体で生徒状況を共有して対応する。		A			
1年次 ・基本的な生活習慣を身につけさせ、自己管理を通じて高校生としての自覚を持たせる。	時間を厳守させ、欠課、早退、遅刻を減少させる。	B	B	B	
	日常生活における挨拶や、身だしなみ、目上の人には丁寧語で話すことなどを中心に、基本的なマナーを身につけさせる。	B			
	集団の一員としての自覚を促し、かつ「産業社会と人間」の授業等を通じて、本校総合学科の生徒としての誇りを持たせる。	A			
2年次 ・基本的な生活習慣を身につけさせ、自己管理を通じて高校生としての自覚を持たせる。	時間を厳守させ、欠課、早退、遅刻を減少させる。	C	B	B	
	日常生活における挨拶や、身だしなみ、目上の人には敬語で話すことなどを中心に、基本的なマナーを身につけさせる。	B			
	集団の一員としての自覚を促し、授業や各行事を通じて、本校総合学科の生徒としての誇りを持たせる。	B			
3年次 ・最高年次としての自覚と責任をもって行動させる。	生活態度の改善に努め、本校生の模範となるように言葉遣いや身だしなみなど気をつける。	B	B	B	
	教室や廊下に私物を放置しないように整理整頓を徹底させ、校内美化に努めさせる。	B			

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
生徒の望ましい職業観・勤労観を確立させ、職業選択を視野に入れた教育活動を推進する。	進路指導部 ・年間進路指導計画に基づいて適切に指導し、生徒の進路実現に努める。	進路情報を適時に生徒や保護者に提供し、進路への関心の喚起・意識の向上に努める。	B	A
		学校説明会・オープンキャンパス・企業説明会・企業見学・体験学習等への積極的な参加により、現実的な認識を身につけさせる。	A	
		模擬試験・進学補習・面接指導・小論文指導等を計画し、生徒の進路希望実現の支援をする。	A	
		各年次団と進路指導部で進路情報の共有を図り、連携を密にして進路指導に努める。	B	
	1年次 ・自己意識涵養	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」などを通じ、社会の一員としての自己理解、自己管理、自己責任の意識を持たせる。	A	A
	2年次 ・自己意識涵養	「総合的な学習の時間」や各行事などを通じ、社会の一員としての自己理解、自己管理、自己責任の意識を持たせる。	B	B
	3年次 ・進路実現	進路指導計画や総合的な学習の計画に基づき、適時に進路情報を提供することにより、適切な進路指導を行う。	A	A

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
生徒自身で将来を切り開くことのできる応用力を持った、基本となる確かな学力・資質を育成する。	1年次 ・自己実現に向け、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	積極的に授業に参加する態度を育成する。	B	B
		主に「総合的な学習の時間」に行う「基礎学力診断テスト」を中心に、家庭学習の習慣を身につけさせ、学力の定着を図る。	B	
		長期休業中の計画的な家庭学習の習慣を習得するよう促す。	B	
		基礎学力の重要性を、進路実現との関連性から自覚させる。	B	
	2年次 ・自己実現に向け、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	積極的に授業に参加する態度を育成する。	B	B
		「LHR」や「総合的な学習の時間」に行う「基礎力養成講座」や「語彙力養成講座」を中心に、家庭学習の習慣を身につけさせて、学力の定着を図る。	B	
		長期休業中の計画的な家庭学習の習慣を、習得するよう促す。	B	
		各自の進路について自ら考えることで、具体的な展望を持たせるとともに、基礎学力の定着や、学力向上の必要性を、進路実現との関連性から自覚させる。	B	
	3年次 ・自己の進路希望の実現に向けて最大限努力させる。	進路に対応した基礎学力の向上と進路指導の充実を図り、早期に準備を始められるように指導を行う。	A	A
		進路希望を実現するために、小論文や面接指導・放課後補習を通して、生徒一人ひとりに対応したきめ細やかな指導を行う。	A	

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価			
瑞穂会活動を通して自主性と思いやり、人権尊重の気持ちを持った生徒を育成する。	瑞穂会指導部・特別活動・自治的活動に主体的、積極的に取り組み、自ら企画し実行する力を養う。	生徒会、各自治委員会が生徒の学校生活の充実・向上をはかるために、生活規範遵守や行事遂行を目標として年間計画を作成し、全校生徒が一体となって達成に向けて積極的に取り組む。また年数回、代議委員会を開催し各委員会間の連携を深める。	A	A	A	
		スポーツ大会、みずほ祭、球技大会を生徒会と自治委員会などが協力して取り組む。充実を図るために、全校生徒の意見を幅広く取り入れて、自主的に行事を計画・運営できるようにする。	A			
		ボランティア活動に積極的に参加したり、主体的に各種活動を行ったことにより地域との交流を図るとともに、協力の精神を育む。	B			
	・部活動を通して、生徒の心身の成長を図る。	部活動紹介などを実施して、1年次生全員、2・3年次生では80%以上の部活動への参加を目指す。また、年間活動計画・活動目標を各部・同好会で作成し、それに沿って活発に取り組む。	A	A		
		生徒一人ひとりが目標を高く設定し、よりよい部活動を送れるように、部班の精選も含めた活動環境や予算の面などの充実を図る。	B			
1年次 ・協働と共生の精神を培い、成長を図る。		部活動への全員加入と積極的な活動参加を促す。	B	B		
		毎日の清掃活動を中心に、日常的な環境美化を促す。	B			
		行事、部活動、LHRなど学校生活の諸活動の中で、協力して物事に取り組む姿勢と他者受容の精神を養い、人に対する心遣いのできる資質を醸成する。	B			
2年次 ・協働と共生の精神を培い、成長を図る。		毎日の清掃活動を通して、日常的な環境美化を促すとともに、協働の大切さを認識させる。	B	B		
		行事、部活動、LHRなど学校生活の諸活動の中で、目標達成のために意見を出し合い、協力して行動することの必要性を自覚させると共に、他者受容の精神を養う。	B			
3年次 ・最高年次としての自覚と責任感を涵養する。		部活動等の課外活動に積極的に参加することで、自己実現を目指させる。	B	B		
		各種行事（みずほ祭、スポーツ大会など）において、最高年次として活躍する場面を設定し、リーダーシップを発揮させる。	B			
人権教育、同和教育推進委員会 ・職員姿勢の充実を図る。 ・部落差別を正しく理解し、部落差別をなくそうとする意欲と実践力育成する。 ・生徒の学ぶ姿を通して家庭との連携を強化し、生涯学習の場を提供する。 ・小中学校・地域との連携を図る。		全職員が積極的に各種研修会へ参加し、自らの人権感覚を磨くとともに、研修成果を生徒・職員に還元する。	A	A		
		校内研修会を各学期1回以上開催し、人権感覚や、資質と実践力の向上に努め、「かかわる同和教育」を推進する。	A			
		「生きる」シリーズを有効に活用しながら、人権・同和教育についての授業を年1回以上実施し、基本的なところから、正しい知識で、人権感覚を高める事をめざし、理性的に、また積極的に問題解決に向かう生徒の意欲を育てよう指導する。	A			
		同和教育講演会を開催し、部落差別の現実を深く学ばせるとともに、講演アンケートを用いて、事後指導を充実させ、人権についての理解を深めさせる。	A			
		講演会や学習会に保護者の積極的な参加を促し、「人権、同和教育便り」を発行することで、保護者、地域を交えての人権教育の啓発に取り組む。	A			
		小・中学校や地域、行政との連携を深める。	B			

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
家庭や地域社会、関係機関と連携し、地域から愛され、信頼される学校づくりを推進する。	教務部 ・ P T A 活動などを通して会員の生徒理解・学校理解が深まるよう支援する。 ・ 地域社会から理解され連携を深める活動の推進。	参加者が多数になるよう行事を企画し、広報誌を利用した情報伝達を充実させる。	B	A
		立哨指導・授業参観等を実施し、生徒理解を図る。情報交換の場として多数の参加が得られるような P T A 集会を企画立案する。	A	
		中学生体験入学や学校見学会を通じて、本校を志望する生徒に対し、有意義な情報提供を行うとともに、行事の開催や種々の情報発信を通じて、本校に対する理解を深めてもらう方策を講じる。	A	B
		専門学科を有する本校の特徴として、地域社会と積極的に協力連携し、実学を通じたアクティブラーニングの推進を図る。	B	
	地域の方々へ情報を発信し、本校に対する理解をさらに深めていただくための方策を実施する。	C		
	生徒指導部 ・ 職員、地域、家庭との連携を図る。	地域・家庭と共通理解を図るため、P T A 総会や学校評議員会などでの席で具体的な説明を行い、協力や情報提供が得られやすい環境をつくる。	B	B
		年次を中心とした指導体制を構築し、年次と生徒指導部の連携を図り、職員が一体となった体制をつくる。 (年次との情報交換を促進する)	B	
		集会や情報の提供を通して、地域との関わりを大切にする指導を行う(マナーや交通など)。	B	
	3 年次 ・ 最高年次としての自覚と責任をもって行動させる、	生活態度の改善に努め、本校生の模範となるように言葉遣いや身だしなみなど気をつけさせる。	B	B
		教室や廊下に私物を放置しないように整理整頓を徹底させ、校内美化に努めさせる。	B	